

沖縄「返還」から52年

辺野古・大浦湾を埋め立てないで!



5月15日は、沖縄県の施政権が日本に返還されてから52年目です。しかし返還に込められた「基地のない平和な沖縄」の願いは踏みにじられ、今なお巨大な米軍基地が居座るばかりか、自衛隊基地の増強まで強行されています。

👉 沖縄が軍事要塞に？

岸田政権は、地方自治体の権限を奪う「代執行」という強権的な方法で、沖縄県名護市の辺野古・大浦湾の豊かな海を埋め立て、新たな米軍基地を建設しようとしています。「世界一危険」と言われる普天間基地では、昨年11月に墜落事故を起こした米軍オスプレイの飛行再開を、事故原因が不明なまま強行しました。さらに先制攻撃能力を持つミサイル部隊を沖縄の島々に次々と配備し、沖縄を本格的な軍事要塞にしようとしています。

👉 うるま市では計画断念

沖縄県うるま市の陸上自衛隊訓練場の新設計画は、政治的立場を超えた反対運動で「断念」に追い込みました。木原防衛大臣は「住民生活と調和しながら訓練の必要性を十分に満たすことは不可能」と述べましたが、辺野古の新基地建設も同じ問題を抱えています。普天間基地の危険性除去は、辺野古に代替基地を造るのではなく、普天間基地の運用停止と撤去でこそ実現できます。

6/16は県議選

玉城県政支える 県議会を!



辺野古の新基地建設計画に、沖縄県民は住民投票や各種選挙などで何度も反対の意思を表明してきました。辺野古中止を掲げて当選した玉城デニー知事を支えるのが、県議会の半数を占める「オール沖縄」の議席です。県議選が6月16日投開票で行われます。基地建設を止める議席を増やそうと、県外からもエールを送ってください。



辺野古新基地建設工事の中止と普天間基地撤去を求める署名にあなたも!

日本平和委員会 2024年5月発行
一人ひとりの平和の願いをもとに行動する平和NGOです
「平和新聞」(旬刊)、「平和運動」(月刊) 発行中
<http://j-peace.org/> (t) (f)

